

平成28年11月発行  
 高野恒一郎事務所  
 武蔵野市吉祥寺北町 1-19-6  
 TEL/FAX 0422-23-0907  
 MAIL info@gengi-musashino.com

# 武蔵野市議会議員

# 高野 恒一郎

たかの こういちろう

## 市政レポート

**平**成25年10月の初当選から3年が経過しました。青少年健全育成及び、健康長寿都市への取り組みを中心に、活力ある武蔵野市政を目指し、日々活動に励んでいます。

現市長の市勢運営は「市民がまん中」と謳いながら、実際は市民不在の市政運営であり、長年築き上げられてきた市民と行政との信頼関係が大きく崩されようとしています。そのような市長の市勢運営・政治姿勢を厳しく質しながら、現役世代の声を市政へ届け、次世代へ誇りある武蔵野市を引き継げるよう、取り組みを進めて参ります。



### 平成28年第二回定例会 一般質問より抜粋

**介護予防事業・健康づくり事業のシームレスな体系作りと、いきいきサロンへの発展を！**

**問 高野** 市民の健康寿命延伸のため、市内で行われている介護予防事業・健康づくり事業等の運動強度や目的、対象者を把握し、シームレスな体系化を図り、新たな参加を促す機会を増やすべき。

**答 市長** きっかけづくりとして、地域で高齢者が参加しやすい事業について検討していく。また、さまざまな事業を、きめ細かくつなげていくような体系化を工夫したい。

**問 高野** いきいきサロンに介護予防や健康づくりの専門家を派遣する仕組みを作り、開設のハードルを下げ、より多くの開設を目指すべき。

**答 市長** 介護予防プログラムの情報提供などの支援を行うっていく予定だが、リハビリ専門職や柔道整復師等の派遣についてもあわせて検討したい。

健康長寿社会の実現のためには、心と身体の健康づくりをより身近なものにする必要があります。そのため、事業の体系化と会場の確保、いつでもどこでも誰でも気軽に参加できる環境整備と仕組み作りが重要です。

高齢者にとって出かける用事がある、出かける場所があることは、身体の健康だけでなく、心の健康にも繋がります。これまでも健康づくり事業の体系化の必要性は何度も取り上げ、少しずつ進んでいると感じていますが、今後さらなる充実を目指し、健康長寿ナンバー1都市の実現に取り組んで参ります。

第二回定例会では他に「児童・生徒の健やかな成長のために広い校庭の確保・維持を」「小中学校ポータルサイトの有効活用について」「撤去自転車一時保管場所を整理統合し有効活用すること」等の質問を行いました。

### 平成28年第三回定例会 一般質問より抜粋

**施設一体型義務教育学校導入の根拠を示せ**

**問 高野** 検討委員会の報告書で示されているデータは全国的なものや一般論であり、本市として施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の設置が望ましい根拠が示されていない。

**答 教育長** 最終的に市教育委員会としては決定していない。現在、小中一貫教育調査研究ワーキングチームで、施設一体型義務教育学校の設置も含めた検討を進めているところである。

市教育部職員のみで構成された検討委員会の報告書では、施設一体型義務教育学校の設置が望ましいとして、導入するための検討を進めようとしています。

しかし、報告書の矛盾や想定される問題点を指摘すると「まだ決まったことではない」との答弁が返ってくるため、常に議論がかみ合いません。教育長・教育部は市民や議会の疑問に正直に向きあうべきです。



▲私の地域活動の原点、むさしのジャンボリーに今年も参加致しました。子供達との触れ合いの時間が私にエネルギーを与えてくれます。

小中一貫校を検討する前に、現在の教育現場へ目を向け、良好な教育環境の確保を！

**問 高野** 近年一部の小学校に児童が集中し負担が増していることは、良好な教育環境の確保のためにも解消すべき問題である。施設の増設ありきではなく、コミュニティや兄弟などに配慮し、丁寧な対応に努めながら学区の再編に取り組むべき。

**答 教育長** 児童生徒数の増加による教室などの学校施設の不足が生じないよう、保護者や地域に丁寧に説明しながら検討したい。

## 地方自治法を拡大解釈!「無責任な意見書」に反対!!

議員提出議案により「住民の安心とやんばるの森の自然環境の保全を求める意見書」が可決され、**沖縄県外で初の高江ヘリパッド建設反対の意見書**として報じられました。このヘリパッド建設は、沖縄県における最大の軍事演習場の約半分を返還するためにヘリパッドを移設する計画です。

市議会による意見書は地方自治法99条により「普通地方公共団体の議会は当該普通地方公共団体の公益に関する事件につき意見書を国会又は関係行政庁に提出することができる」とされており、武蔵野市議会であれば武蔵野市の公益に関する事件につき提出できるようになっています。しかし、本意見書は武蔵野市の公益に関するものではなく、提出をすれば**武蔵野市議会の見識が疑われることになり武蔵野市の名に傷をつけ、公益を損なう行為**となります。反対運動をしたいのであれば議員それぞれの立場で責任を持って行うべきであり、**地方自治法を拡大解釈したパフォーマンスは慎むべきである**と反対しましたが、残念ながら賛成多数で可決。

市は少子化の進展により、学校規模が基準を下回ることを防ぐ必要があるとの方針を示しており、教育長からも「施設一体型義務教育学校が導入できなかった場合は、学校の統廃合を考えなければいけない」といった答弁がありました。そして市の推計では約20年後に一部の小学校が基準を下回るとしています。

しかし、この先の数年間は児童数の増加が見込まれており、一部の小学校のさらなる負担増が予想されるにも拘らず、大規模化に対する対策は校舎を増築するのみで、根本的な解決には目を向けていません。

将来を見据えた取り組みも必要ですが、まずは現在の子供達や、5年後10年後の子供達に対しての責任を果たさなければいけません。

### 平成28年第三回定例会 決算特別委員会より抜粋

#### 見せかけの市民参加か？市民不在の市政運営

**問 高野** 新武蔵野クリーンセンター周辺整備に関わる関連団体より「形だけの市民参加では協議を続ける意味がない」との確認書が市長に対し提出された。本市におけるゴミ処理場問題は長年にわたり市民と行政との信頼関係から成り立ってきたが、現市政になって**市民との信頼関係が崩れている**のではないか。

**答 市長** 若干のボタンのかけ違いがあったことは反省しているが、話し合いにより関係は再構築できていると考えている。

市長は「市民がまんなか」を標榜していますが、実際には「市民は蚊帳の外」、市民不在の市政運営であると指摘せざるを得ません。

この先30年間の公共施設の削減目標や、具体的に廃止を検討する施設まで明記された**公共施設等総合管理計画を、案を示してからわずか3ヶ月、たった3回の市民説明会のみで策定しよう**としていたことや、**吉祥寺駅南口の交通開**

題に関する地元の提案に対して「職員から市の方針と合致しないと聞いている」と門前払いしておきながら、市議会に対して「地元の検討経過を待っていると」**と答弁をするなど、市民と丁寧に對話をする姿勢が見られません。**

現在は武蔵境駅北口市有地の有効活用に関して、長年にわたり市の街づくりに協力してきた地元関連団体や複数の商店会から異を唱える要望書が提出されています。この事業に関して市は「地元の理解を得ている」との認識を示していましたが、**実際は市民に考える時間を与えない、結論ありきの進め方であると指摘をされています。**



▲第58回北多摩地区消防大会にて放水隊の1番員を務めました。

#### ◆高野恒一郎プロフィール◆

◇昭和47年4月武蔵野市生まれ◇市立関前南小学校・第五中学校卒業◇プロスポーツの世界を志し都立保谷高校を中退◇プロスキー教師・スポーツイベント企画・スポーツクラブ経営等を経て平成25年10月武蔵野市議会議員補欠選挙にて初当選・現在2期目

#### ◆現職◆

◇市議会文教委員会委員／議会広報委員会委員／公共施設等総合管理計画の策定に関する特別委員会委員◇都市計画審議会委員／国民健康保険運営協議会会長代行◇武蔵野市消防団第四分団員／青少協関前南地区委員／四小地域防災会／四小地域福祉の会◇自民党武蔵野総支部副総務会長／武蔵野市防衛協会常任理事・青年部長



高野恒一郎

検索